

令和5年度 大田区立久原小学校 自己評価 報告書

令和5年8月28日

○ 本校の概要

○児童数832名、第3・4学年は各5学級、それ以外の学年は各4学級、全26学級の大規模学校である。本校は、教室と廊下の間に壁がないオープンスペースを生かして、学年全体で学び合う場を多く設けているが、一部学年では上下階に教室を分けざるを得ないため、十分な活用が図れない状況がある。担任以外の職員も一人一人の子供のよきと課題に気付き、全校で子供を見守り、組織的に育てていく。
 ○コミュニティ・スクールモデル事業実施校として大田区の指定を受け、学校運営協議会と地域学校協働本部(スクールサポートがはら)の協力をいただきながら地域と協働した教育活動を進めている。校外学習や体験的学習等での支援ボランティアのほか、授業外の「読み聞かせ」、「図書館支援」、「芝生」、「おやじの会」など、様々な場面で学校支援活動が盛んに行われている。また、夏休みのフロンティアフェスティバル「夏休みドキドキ学校」では、学校と家庭と地域が協力し、コロナ禍にも関わらず80講座の学びの場を設定した。夏休みも、学校は子供たちの声が響き、賑やかである。
 ○「地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子」地域連携による「大田の未来づくり」を目指して、「一」をテーマに、生活科と総合的な学習の時間を中心に新教科「大田の未来づくり」研究協力校として校内研究を進めている。よりよい地域・社会・未来を創造する力が身に付き、自己の生き方を考えることができるようになるために、地域と連携・協働して思いや願いを実現したり、課題を解決したりする学習を行い、児童の資質・能力の向上に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄																	
								評価	人数	コメント															
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にこたえる子どもたちの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		4:80%以上 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			A																	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		3:70%以上 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。					B															
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 1:60%未満であった。	児童の自己評価において、「将来、自分は社会(みんな)の役に立ちたいと思いますか」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	2:60%以上 1:60%未満であった。						C														
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。							D													
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。																				
		人間関係を豊かにする協働的学習を取り入れ、児童が関わり合いながら学ぶ場を設定する。	4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 2:60%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。																				
		学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。										A										
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。		3:70%以上 2:60%以上の教員が働かかけた。											B									
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働かかけた。 3:80%以上の教員が働かかけた。 2:60%以上の教員が働かかけた。 1:60%以下の教員が働かかけた。	児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいますか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	2:60%以上 1:60%未満であった。												C								
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。													D							
児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業づくりを行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。																						
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		4:80%以上 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。				A																
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		3:70%以上 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。						B														
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	児童の自己評価において、「学校のきまりを守り、よい学校をつくろうとしていますか」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	2:60%以上 1:60%未満であった。							C													
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。								D												
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたか会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。		1:60%未満であった。																				
		「丁寧な挨拶」の定着に向けて、重点的・継続的に指導する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。																				
		プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4:80%以上 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。												A					
				給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		児童の自己評価において「進んで運動して、健康的な生活をしていますか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合	2:60%以上 1:60%未満であった。											B						
				体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			1:60%未満であった。										C							
				運動や望ましい生活習慣の確立に向けた指導などを通して、自己の健康増進について主体的に取り組もうとする意識の向上を図る。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。										D								
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。			授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		4:80%以上 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			A															
				授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		3:70%以上 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。				B														
				各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	保護者のアンケートにおいて「学校は教え方を工夫し、分かりやすい指導をしている」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	2:60%以上 1:60%未満であった。					C													
				校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。		1:60%未満であった。						D												
				危機管理マニュアルの内容を確実に理解し、児童が安全な場で、安心して学校生活を送ることができるよう対応する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		1:60%未満であった。																		
				プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		4:80%以上 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。														A		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。			保護者アンケートにおいて「学校はPTAや地域と協働し、日頃の教育活動や安全な学校生活の充実に取り組んでいる」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	3:70%以上 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。								B										
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。				2:60%以上 1:60%未満であった。												C						
		コミュニティ・スクールモデル事業実施校として、地域と協働した学校づくりを推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。				1:60%未満であった。											D							
		プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。																						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。